

9月 2日 消防ポンプ操法競技大会を開催



分団全員が役割を果たして行なわれる放水

消防団員が日頃の訓練を披露
市は、わかぐり運動公園にて、かすみがうら市消防ポンプ操法競技大会を開催しました。
この大会は、消防団員の消火技術の向上と士気高揚を目的に毎年開催しているもので、日頃の訓練の成果を披露し、スピードと正確さを競い合いました。

大会の成績は次のとおりです。

「ポンプ車の部」

- ▼優 勝Ⅱ第一分団第二部
- ▼準優勝Ⅱ第四分団第二部
- ▼第三位Ⅱ第八分団第一部
- 「小型ポンプの部」
- ▼優 勝Ⅱ第七分団第五部
- ▼準優勝Ⅱ第十分団第三部
- ▼第三位Ⅱ第一分団第三部

女性消防団員が応急手当指導員資格を目指して 9月 8日



消防署職員からAED講習の流れを教わる団員

応急手当指導員誕生に向けて
市内の女性消防団員十二人は、市消防本部が主催する応急手当指導員養成講習会を受講しています。
この講習会は、普通救命講習会などの指導員を養成するもので、普通救命講習会（全三時間）を受講した後、消防本部で二十四時間分の講義と実技講習を経て、資格を取得するものです。
資格取得後は、救急救命士とともに、普通救命講習会受講者に蘇生法やAEDの取り扱いを指導するなどの活躍が期待されています。
参加者の市村明代さんは、「講習を受けたことで、指導員としての責任を持つようになった。受講内容を、家でも継続的に練習して覚えてたい」と意気込みを話してくれました。

9月 22日 秋空の下ふれあいサイクリングを開催



筑波山を望みながら快走する参加者（石岡市内）

常陸風土記の丘を目指して快走
市では、恋瀬川サイクリングコース管理運営協議会の補助事業として、ふれあいサイクリングを開催しました。
当日は、残暑の中、小学三年生から七十七歳までの親子連れや友だち同士のグループなど、二十七人が参加しました。
参加者は、わかぐり運動公園を出発し、常陸風土記の丘でタワー・ゲット・フリスビー体験と昼食、桜井ぶどう園でぶどう狩りを楽しんだ後、出発地のわかぐり運動公園まで、全行程二十一キロメートルを、軽快に完走しました。
参加者のひとりには、「サイクリングのほかに、ぶどう狩りなどが一緒にできたのが、楽しかった」と話していました。

市では、国際感覚を養うことと広い視野から郷土や国際社会の理解を深めることを目的に、中学生の海外派遣事業を実施し、市内四中学校の二年生四十人と引率者四人が、オーストラリアで、現地校との交流やホームステイを体験しました。



少年のつばさ 中学生の海外派遣団がシドニー市とマンリー市を訪問

8月 行程表

- 16日(木) = 空路シドニーへ
- 17日(金) = シドニー着、市内研修(オペラハウス、ミセスマッコリーズチェアー)、マンリー市内でホームステイ
- 18日(土)・19日(日) = ホストファミリーとの個別活動、ホームステイ
- 20日(月) = キラウィーハイスクール生徒との交流会、ホームステイ
- 21日(火) = シドニー水族館見学、ダーリングハーバー周辺の自由散策
- 22日(水) = 空路成田へ

団員代表と団長報告
山口 利明さん(南中学校)
「わあすごい」オーストラリアの海の色は、一面エメラルドグリーン。夢をみているようでした。言葉・食事・習慣など、日本と違うところがたくさんありましたが、それもまた楽しかったです。そして何より、ホストファミリーの人の温かさを感じました。
小林 舜さん(北中学校)
現地では、有名なオペラハウスなどを見学しました。また、ホームステイでは、聞き取れなかった英語も少しずつ理解できるようになって貴重な体験ができました。今回の研修では、英語の学習の重要性を学び、一段と成長した気がします。
久松 大樹さん(千代田中学校)
僕は、この研修をとても短く感じました。単語をつなげたり、身ぶり手ぶりでも気持ちを伝えることができるという事を学びました。「言葉の壁」なんてないと思えます。この研修は、僕たちを何倍も大きく成長させてくれました。
東峰 綾女さん(下稲吉中学校)
私は、このオーストラリア研修「少年のつばさ」

に参加させて頂き、改めて英語の重要性と自分の英語力の未熟さを痛感しました。この体験を通して、英語の向上を目指し、近い将来また海外へ行き、自分の英語力を試してみたいと思います。
石塚 貴夫団長(千代田中学校長) 報告
オーストラリアの景色もさながらジョアン元市長やホストファミリーの丁寧な歓迎が心に残っています。団員たちは「自然や文化の違い、変わらない人情、世界の中の日本、挨拶で始まるコミュニケーション、語学学習の意義、自己表現や積極性の大切さ」など多くのことを学びました。この貴重な体験を是非みんなに伝えてほしいし、自分の成長の糧にもしてほしいと思います。
この事業は、大きな成果をもたらしていますが、さらに改善を加え、よりよい事業にする努力も大切です。そして、この少年のつばさが、「少年の日は大人の日を約束する」事業になることを期待しています。
Thank you for cooperation of all of you.



当市と親交の深いジョアン・ソーバン元マンリー市長(前右)とホストファミリー宅にて

団員たちは、「日本から来た新しい家族」としてホストファミリーに温かく迎えられ、観光やショッピング、ホストファミリー合同でのバーベキューなどをしながら週末を過ごしました。